令和６年２月２日
国土交通省東北地方整備局
成 瀬 ダ ム 工 事 事 務 所

「成瀬ダムモニタリング委員会」
第８回委員会の開催結果について

成瀬ダム建設事業は、平成１１年５月に閣議アセスに基づく環境影響評価書が公告・縦覧され、一連の環境影響評価手続きが終了しています。
成瀬ダム建設事業の実施においては、平成１１年から施行された環境影響評価法や最新の知見等を踏まえ、環境への配慮が必要な事項について、環境の個別分野ごとに専門家の指導・助言を得ながら、成瀬ダム周辺環境の現地調査を継続し、環境保全の検討を行うとともに、既にその一部は対策を実施してきました。
ダム建設工事中の環境保全措置等を適切に実施していくため、工事中の環境モニタリングについて、専門家から指導・助言を得る「成瀬ダムモニタリング委員会」を平成２９年３月６日に設立しています。
本日２月２日、秋田市内において「成瀬ダムモニタリング委員会」（第８回）を開催し、令和５年度モニタリング調査結果、令和６年度モニタリング調査計画について報告を行い、ご助言等をいただきました。

要旨

１．令和５年度のモニタリング調査結果について

・令和５年度のモニタリング調査結果について確認した。

①水質調査　**（別紙補足資料-1参照）**

＜調査概要＞

・平成４年度から調査を実施している。
・調査項目は、一般項目（水温、濁度）、生活環境項目（pH、BOD、SSなど）計８項目、健康項目（カドミウム、シアンなど２４項目）等の調査を実施している。

＜調査結果＞

・令和５年度の調査結果は、概ね環境基準を満たしており、令和４年度までの結果とほぼ同様の状況で大きな変化は無かった。

【確認結果】

・工事現場の濁水処理対策の実施状況について確認した。
・工事及びダム建設に伴う影響を把握するため、今後も調査を実施する。

②クマゲラ調査　**（別紙補足資料-2参照）**

＜調査概要＞

・平成５年度からクマゲラの生息状況の調査と生息していた場合に生息範囲を確認する調査を実施している。

＜調査結果＞

・令和５年度の調査結果は、クマゲラのものと推察される痕跡（巣穴等）を１箇所確認した。

【確認結果】

・クマゲラのものと推察される痕跡は、これまでにダム建設事業地内外で複数確認しており、生息している可能性はあるが、クマゲラを直接確認できていない。

・ダム建設事業地は、そのうちの一部であり、影響はないと考えられる。

・生息状況を把握するため、今後も調査を実施する。

③植物モニタリング調査（Ｒ１～４移植）　**（別紙補足資料-2参照）**

＜調査概要＞

・令和１～４年度に移植したナベクラザゼンソウ､オニノヤガラ､テイネニガクサ、エゾスズラン、エゾヒメクラマゴケ、タテヤマウツボグサ、シロヨメナ、ヤマスカシユリの８種のモニタリング調査、及び令和５年度にエゾヒメクラマゴケ、シロヨメナ、ヤマスカシユリを追加移植した。

＜調査結果＞

・令和１～４年度に移植した８種のうち６種の生育を確認したが、オニノヤガラ、タテヤマウツボグサの２種の生育が確認されなかった。

【確認結果】

・令和６年度は、令和１～５年度に移植を実施したナベクラザゼンソウ、オニノヤガラ、テイネニガクサ、エゾスズラン、エゾヒメクラマゴケ、タテヤマウツボグサ、シロヨメナ、ヤマスカシユリの８種のモニタリング調査を継続する。

④希少猛禽類調査　**（別紙補足資料-3参照）**

＜調査概要＞

・平成８年度から調査を開始し、平成１０年度に「成瀬ダムに係るイヌワシ・クマタカ調査委員会」を設立し、猛禽類の専門家の指導を得ながら調査を実施している。

【確認結果】

・イヌワシ１ペア、クマタカ２ペア等の繁殖確認について確認した。

・工事及びダム建設の影響を把握するため、今後も調査を実施する。

⑤魚類調査（ダム下流のモニタリング）　**（別紙補足資料-3参照）**

＜調査概要＞

・平成７年度より調査を実施し、平成２６年度からは地域に特徴的であるエゾウグイ、ウグイ、アユ、ニッコウイワナ、サクラマス（ヤマメ）、カジカの６種を対象として、同一の３箇所、同一手法で年３回（春季、夏季、秋季）調査を継続している。

＜調査結果＞

・田子内地区で５種、手倉地区で５種、草の台地区で４種、３地区全体では６種全ての生息を確認した。

【確認結果】

・調査対象種６種は確認できたが、個体数は経年の変動が認められた。
・工事及びダム建設の影響を把握するため、今後も調査を継続する。

⑥魚類相調査　**（別紙補足資料-4参照）**

＜調査概要＞

・皆瀬川合流点～ダム上流にかけての河川域における魚類相の変化を把握するため、調査を実施している。

＜調査結果＞

・魚類相調査の結果、合計１６種を確認した。
・前回調査（H17-18）２１種と比較すると、同様の結果であり大きな変化はみられなかった。

【確認結果】

・前回調査（H17-18）２１種と比較すると、調査結果に大きな変化はみられなかった。
・工事及びダム建設の影響を把握するため、今後も調査を実施する。

⑦底生動物調査　**（別紙補足資料-4参照）**

＜調査概要＞

・皆瀬川合流点～ダム上流にかけての河川域における底生動物相の変化を把握するため、調査を実施している。

＜調査結果＞

・確認種数は下流の地点ほど多く、酸性河川の赤川で少なかった。
・前回調査（R1）と比較すると、草ノ台で造網型係数が増加、河川全体で滑行係数が減少する傾向を確認した。
・前回調査（R1）と比較すると、全体の確認種数は減少している（２７１種→２３１種）が、多様度指数・平均スコアは維持され、良好な生息環境も維持されている。

【確認結果】

・前回調査（R1）と比較すると、確認種の減少が認められたが、多様で良好な水環境は維持されている。
・工事及びダム建設の影響を把握するため、今後も調査を実施する。

⑧付着藻類調査　**（別紙補足資料-4参照）**

＜調査概要＞

・皆瀬川合流点～ダムサイトにかけての河川域における付着藻類の変化を把握するため、調査を実施している。

＜調査結果＞

・藻類現存量は、下流の地点で多く、上流の地点で少なかった。
・前回調査（R1）と比較すると、両年とも下流ほど細胞数が多い傾向を確認した。

【確認結果】

・前回調査（R1）と比較すると、両年とも下流ほど細胞数が多い傾向を確認した。
・工事及びダム建設の影響を把握するため、今後も調査を実施する。

⑨ダム下流河川の物理環境調査　**（別紙補足資料-5参照）**

＜調査概要＞

・皆瀬川合流点～ダムサイトにかけての河川域において砂礫等の堆砂状況や河床材料の変化等を把握するため、岩盤状況調査、河床材料平面分布調査、河床材料調査、河川地形調査を実施している。

＜調査結果＞

・河床は岩盤が露出している箇所もみられるが、主な河床材料は粒径30～500㎜で構成されている。

・前回調査（R1）と比べると、河床の粒径の変化や土砂の堆積、樹林化、砂州の変化、流水部の変化が一部に見られた。

【確認結果】

・ダム下流河川の河床や流水部の現況を把握した。

・工事及びダム建設の影響を把握するため、今後も調査を実施する。

⑩大気環境調査（粉じん、騒音、振動）

＜調査概要＞

・１０～１１月に、粉じん（現場近傍の降下ばいじん量）、１０月の１日間に騒音及び振動(R342沿線の草の台地区)の調査を実施している。

＜調査結果＞

・粉じん（降下ばいじん量）、振動の観測値は本体着工前を下回る水準で推移している。

・騒音の観測値は環境基準値を下回るものの、工事車両の増加により本体工事着手前より大きくなっている。

・振動は本体着工前と同程度の水準で推移している。

【確認結果】

・工事車両の増加により騒音が大きくなっていると考えられ、今後も留意が必要である。

・工事に伴う影響を把握するため、今後も調査を実施する。

２．令和６年度のモニタリング調査計画

＜計画概要＞

・令和６年度の調査項目は、定期水質調査、出水時調査、クマゲラ調査、植物モニタリング、大気環境調査（粉じん、騒音、振動）、希少猛禽類調査、生態系典型性陸域調査、生態系典型性河川域のうち、哺乳類調査、鳥類調査、昆虫類調査、植生調査とする。

【確認結果】

・令和６年度のモニタリング調査計画について確認した。

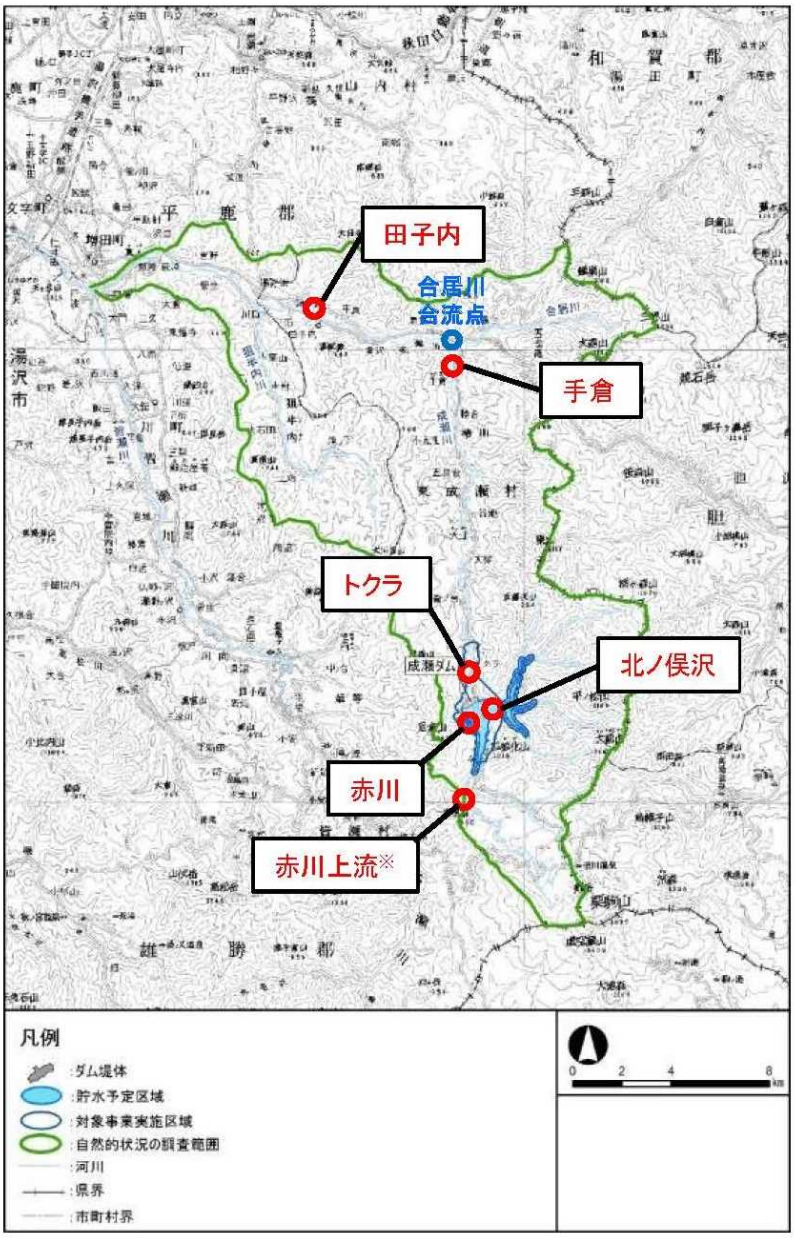
・各調査項目について(河川状況、生物生息・生育等)、変化した要因等を整理するとともに、モニタリング調査を継続する。

以　上

補足資料-1

① 水質調査　参考資料

項目	令和 5 年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査日
定期水質調査	流入河川 ：北ノ俣沢、赤川、赤川上流 下流河川 ：トクラ、手倉、田子内 （計 6 地点）	流量 一般項目（水温、濁度） 生活環境項目 （pH、BOD、COD、DO、SS 等） 富栄養化項目 （ｱﾝﾓﾆｳﾑ態窒素、硝酸態窒素 T-N、T-P 等）	月 1 回 赤川、北ノ俣沢 ：4 月～11 月 赤川上流：5 月～11 月
		健康項目（ｶﾄﾞﾐｳﾑ、全ｼｱﾝ、鉛等）	年 2 回（5 月、10 月）



※赤川上流は、H30 年 9 月から実施

水質調査地点　位置図

補足資料-2

② クマゲラ調査　参考資料

項目	令和 5 年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査時期
クマゲラ調査	事業区域周辺の 3 地区	・ラインセンサス法 ・呼び込み法 ・地区センサス法	秋季 ・9 月～10 月



令和 5 年度調査に確認したクマゲラの可能性がある痕跡

③ 植物モニタリング調査（Ｒ１～４移植）　参考資料

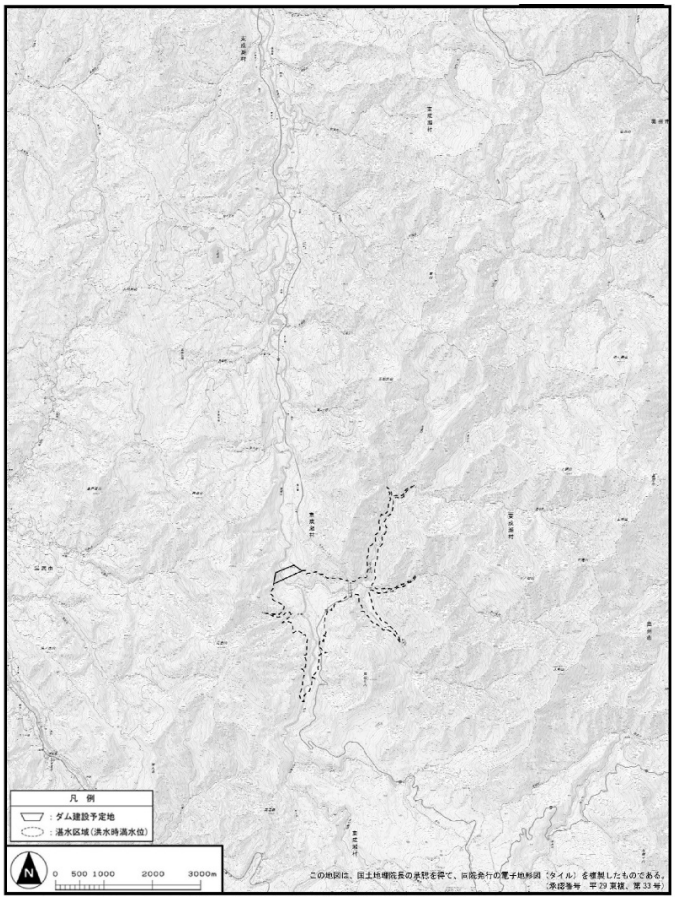


エゾヒメクラマゴケの生育状況（R5.10.13）

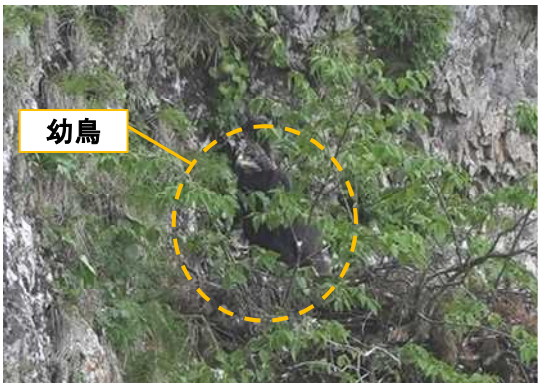


ヤマスカシユリの生育状況（R5.10.13）

④ 希少猛禽類調査　参考資料



希少猛禽類　調査範囲



イヌワシの幼鳥（R5.5.22）



クマタカの幼鳥（R5.10.11）

⑤ 魚類調査　参考資料

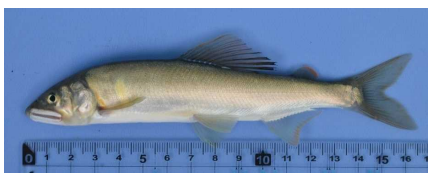
調査項目	令和5年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査時期
魚類調査	・田子内地区 ・手倉地区 ・草の台地区	採捕調査 ・定置網 ・投網	春季（6月上旬） 夏季（8月下旬） 秋季（10月上旬）



エゾウグイ



ウグイ



アユ



ニッコウイワナ



サクラマス（ヤマメ）
調査対象魚種



カジカ

補足資料-4

⑥ 魚類相調査　参考資料

調査項目	令和 5 年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査時期
魚類相調査	・成瀬頭首工下流 ・田子内 ・手倉 ・草の台 ・ダム下流 ・ダム直下 ・ダム湖 ・北ノ俣沢 ・合ノ又沢 ・木賊沢	採捕調査 ・投網 ・タモ網 ・定置網 ・サデ網 ・はえなわ ・どう ・カゴ網 ・セルびん 潜水観察	春季（6 月中旬） 夏季（8 月下旬） 秋季（10 月下旬）



調査実施状況（魚類相調査）

⑦ 底生動物調査　参考資料

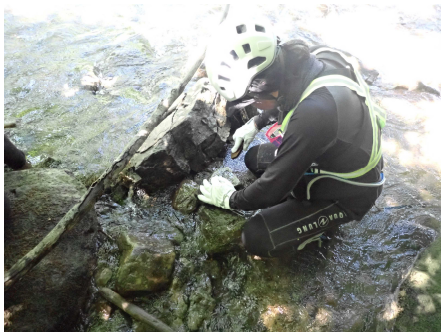
調査項目	令和 5 年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査時期
底生動物 調査	・成瀬頭首工下流 ・田子内 ・手倉 ・草ノ台 ・ダム下流 ・ダム直下 ・赤川 ・北ノ俣沢	・定量調査 ・定性調査	夏季（8 月下旬） 冬季（11 月中旬）



調査実施状況（底生動物調査）

⑧ 付着藻類調査　参考資料

調査項目	令和 5 年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査時期
付着藻類 調査	・成瀬頭首工下流 ・田子内 ・手倉 ・草の台 ・ダム下流（長倉沢） ・ダム直下	・定量採集	夏季（8 月下旬） 冬季（11 月中旬）



調査実施状況（付着藻類調査）

⑨ ダム下流の物理環境調査　参考資料

調査項目	令和 5 年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査時期
岩盤状況調査	・田子内橋上流 ・合居川合流直上流 ・手倉橋上流 ・草の台橋下流 ・ダム下流 ・ダム直下	・目視 ・UAV	冬季 （11 月上旬 ～下旬）
横断測量	・成瀬川 2.0k ・成瀬川 11.5k ・成瀬川 36.2k	・基準点測量	
河床構成材料		・線格子法 ・粒度試験	
河床平面分布	成瀬ダム直下 ～皆瀬川合流点	・目視	
河川地形（瀬淵）			



調査実施状況（物理環境調査）

⑩ 大気環境調査（粉じん、騒音、振動）　参考資料

調査項目	令和 5 年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査時期
粉じん	桧山台地区	降下ばいじん量	10 月～11 月
騒音	草の台地区	騒音レベル	10 月中旬
振動	草の台地区	振動レベル	10 月中旬



粉じん調査の実施状況



騒音、振動調査の実施状況

補足資料-6

第８回 成瀬ダムモニタリング委員会

令和６年２月２日（金）　13：00～15：30
パーティーギャラリーイヤタカ　５階　ハーモニー

次　　第

○ 開　　会

○ 挨　　拶　　成瀬ダム工事事務所長
松冨委員長

○ 議　　事

１．第７回委員会でのご意見に対する対応

２．令和５年度のモニタリング調査結果

３．成瀬ダムモニタリング部会の設置について

４．これまでの環境影響検討に関する取り組みについて

５．その他

○ 閉　　会